

平成31年度 第1回白井市生涯学習推進委員会

1. 開催日時 令和元年5月22日（水）午前10時から正午まで
2. 開催場所 白井市役所東庁舎 3階 会議室302・303
3. 出席者 越村委員長、鈴木委員、佐々木猛委員、比屋根委員、佐々木重孝委員、坂井委員、工藤委員、清水委員、近藤委員、中嶋委員、吉弘委員
4. 欠席者 伊藤委員、野澤委員、猪野委員、笠原委員
5. 事務局 石戸課長、岩立主査補、菅沼主任主事、鈴木主事補
市内公民館及び公民館類似施設 センター長ほか 6人
6. 傍聴者 2人
7. 議題 ①平成30年度公民館事業報告について（公開）
②テーマ
「社会教育関係団体の育成のためのサポートのあり方」について（公開）
③平成31年度社会教育関係団体の認定について（非公開）

8. 議 事

（事務局）

委員の皆様、本日は、お忙しい中ご出席くださりまして誠にありがとうございます。
ただいまから第1回白井市生涯学習推進委員会議を開催します
会議開催にあたり、委員長よりひと言ごあいさつをいただきたいと存じます。

（委員長）

皆さん、おはようございます。昨日と打って変わって、きょうはとてもすがすがしいお天気ですけれども、お忙しい中、今年度の第1回目の生涯学習推進委員会にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

5月1日から令和という元号になりましたけれども、改元に伴い、今改めて平成の30年間を振り返ってみるといことが大事になっているのではないかと考えております。平成は、白井の社会教育、生涯学習においても大きく前進をした30年間であったのではないかと思います。

例えば、富士センターや桜台センターができ上がったりですとか、また市民プールや運動公園、また隣の図書館や郷土資料館を備えた文化センター、こうした社会教育や生涯学習の拠点になるような施設が次々と整備をされていきました。また、平成5年には、「生涯学習都市宣言」を行っております。

一方で、公民館に指定管理者制度が導入されるなど、市民の社会教育や生涯学習を支える体制にも大きな変化が生じてきた時代でもありました。いずれにしましても、平成の30年間というものをきちんと総括をした上で、令和時代のこれからの社会教育や生涯学習のあり方というものを展望していくことが大事なのではないかと考えております。

この委員会は、昨年度、平成最後の年度に発足をいたしました。市の生涯学習、社会教育の充実に向けて発足したわけですが、そうした期待に応えて、これからの時代の生涯学習や社会教育のあり方を、しっかり展望していくためにも、ぜひ本日も忌憚のないご意見をお寄せいただければと思います。何とぞよろしく願いいたします。

(事務局)

委員長、ありがとうございました。

次に、委員より一言ご挨拶いただきたいと思ひます。

(委員)

－ 委員 あいさつ －

(事務局)

ありがとうございました。

次に、会議の成立についてですが、白井市附属機関条例第6条第1項で、会議は委員の過半数が出席しなければ開くことができないと定められております。

本日の出席者は委員15名中、11名の参加となり、過半数を超えておりますので本日の会議が成立することを報告します。

また、白井市審議会等の会議の公開に関する指針の規定に基づき、本会議の一部は公開で開催されることとなりますのでご承知おきください。

それでは、ここからの議事については白井市附属機関条例第6条第1項で「委員長が会議の議長となる」と定められております。

それでは、委員長、議事についてよろしくお祈ひします。

(委員長)

それでは、皆様、よろしくお祈ひします。

では 議題1、平成30年度公民館事業報告について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、平成30年度公民館事業報告について説明します。

平成30年度事業報告についてですが、ここでは事前に送付をさせていただきました「平成30年度白井市公民館等講座・学習のまとめ」を使用いたします。

市内の公民館及び公民館類似施設で実施されました講座や事業の報告書となっております。

市内の公民館や公民館類似施設では、市の「第5次総合計画」において目指す将来像「ときめきとみどりあふれる快活都市」の実現に向けて、地域性をいかした特色のある講座や事業を開催していただきました。

前回の会議でもご説明させていただきましたが、各公民館及び公民館類似施設を指定管理者が管理・運営しており、民間力を生かした講座を実施していただいております。

本日の会議にも各館から職員の皆さんが出席していただいております、この後、事業についての報告をしていただきます。

なお、資料にあります公民センター並びに白井コミュニティセンターの事業報告については、コミュニティ施設事業となりますので、参考資料とさせていただきます、この場での説明はございませんのでご了承ください。

これから各館の説明にうつりますが、質問等については全ての館からの報告終了後に行いません。

それでは、西白井公民館お願いします

(西白井公民館長)

普段は皆様のお力添えをいただきまして、まことにありがとうございます。

それでは、早速報告に移らせていただきます。

まず、全体の方針としてですが、地域の声を拾い、人材・資源を掘り起こし、住民の豊かな関係等を築くよう努める、地域の人と人とを結びつけ、にぎわいと活力を広げる、住民が学び合い、共有し合い、連帯しながら地域をつくる主体となっている実感を持つ場としていくという、こちらの方針を立てまして、西白井複合センターを利用されているサークルさんや市民の皆さんの力を取り入れた事業計画を立て、実行していくことを目指しておりました。

また、西白井複合センターでは、平成30年度、自主事業のブラッシュアップを目指しまして、その継続事業が多くなり職員の負担もふえがちでしたので、そちらを整理いたしまして、講座そのものをなくすのではなく、回数を減少させてスリム化させることで、一つ一つの事業に職員が積極的に取り組めるような体制をとりました。このような目標をもとに、30年度は活動させていただきました。

では、早速ですが、各事業のご紹介をさせていただきたいと思います。

家庭教育の子育てサロン、生活講習&クッキングですが、こちらは西白井公民館を利用いただいている千葉ニュータウン友の会の皆さんを講師としまして、子育て中のお母さんを主に対象としまして、保育を設けながら子育て中のお母さんたちの悩みを取り除くような生活講習と、それからクッキングをして交流を図りました。

次に、青少年教育では、「アートで遊ぼう！」という講座がありまして、こちらは、内容自体は平成29年度から継続して行っている子供たちに芸術に親しんでもらおうという講座なのですが、内容をかなり変更しまして、講師による連続講座だったものを単発講座に変更しまして、少しの子供たちに深くというよりは、より多くの子供たちが芸術に親しむきっかけをつくることを重視したような講座に変更いたしました。主な講師を児童館職員に変更いたしまして、より子供たちに寄り添ったアートを紹介していけるような講座へと変更しております。

成人教育に行きまして、特に特徴的なものとしましては、初心者のためのスマホ講座

というものを開催しております。こちらは市民の方から大変ご要望が多かった講座で、定員いっぱいのが埋まりまして多くの方が参加されました。こちらでは、スマートフォンの基礎と災害時の活用方法を学びまして、大変人気のある講座を開催することによって、普段公民館を使われないような方が公民館を知るきっかけとなることも視野に入れております。

成人教育の中ではもう一つ、お菓子&デコ巻き教室というものを行ってありますが、こちらも普段余り公民館を使われないような若い女性が興味を持てるような割と新鮮な料理テーマを設けまして、実際地域の特色として高齢者の方の参加も多かったのですが、若い方の参加もありまして、目的に合った結果を得られたかなと思っております。

講座以外に行った事業のほうにまいります。まず「にしふくマルシェ」という催しです。こちらは平成30年度力を入れた事業なのですが、普段複合センターでサロンを開催されている梨の実ひろばの運営委員さんから提案があり実行したマルシェでして、普段は交流の少ない商店街の皆さんと知り合うきっかけをつくるような事業になりました。こちらは、今後も拡大を目指して31年度も続けていきたいと考えております。

最後の紹介になりますが、「はじめよう！ちはやふる」という講座を開催しております。普段講座を場所としては開催していなかった憩いの家の内部で開催いたしました。参加者は少なかったのですが、憩いの家に初めて来られた方が多く、憩いの家の利用について興味を持った方もいましたので、今後とも憩いの家を講座の場所として使うような事業を展開していきたいと考えております。

平成30年度の総括としましては、ブラッシュアップをした結果、新規事業にじっくり取り組む余裕ができたと考えております。マルシェなどの新規事業には、運営に手間取ったところもありましたので、さらなる発展を目指していきたいと考えております。

それから、常日ごろとしましては、西白井複合センターはロビーコンサートやロビー展示、それから多目的室などにたくさん利用者さんが来てくださっている状態が継続していますので、今後も市民の皆さんに受け入れられるような多くの方が活用できる公民館を目指して運営を進めていきたいと思っております。

西白井複合センターからは以上となります。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、白井駅前公民館からお願いいたします。

(白井駅前公民館長)

学習まとめの41ページから73ページまでが白井駅前センターなのですが、まず43ページをごらんください。

全体の運営方針としまして、子供から高齢者まで多様な世代が集い学ぶことをきっかけに関係をつくり、顔の見える関係を築くように努めてまいりました。孤立化を防ぎ、災害時などにも支え合う地域づくり・まちづくりを運営方針としてやっております。

44ページ、重点に実施した事項としましては、地域の貴重な人材として市民の多様な力を生かし、多くの講座、事業を実施しました。白井市第5次総合計画に基づきまして各プロジェクトを遂行し、その過程で自主事業からサークル化や次年度への事業と結ぶことができました。また、「白井駅前ミュージックフェア ～輪音（わおん）～」は、チャリティーイベントとしまして、市と市民とともに明るいまちづくりをつくることができたと自負しております。

それでは、白井駅前センターで実施した18講座、8事業の中から、5講座と1事業についてご報告させていただきます。

まずは54ページ、バンドチャレンジ講座です。昨年の白井市第5次総合計画、拠点創造プロジェクト、「白井駅前ミュージックフェア ～輪音（わおん）～」等に参加していたグループの中から、ボランティアで市民のために楽器を教えてくれるということになり、バンドチャレンジ講座が実現いたしました。講座には、年齢や楽器の経験値などさまざまな参加者が集まり、楽器の交流を通して世代間交流を図ることができました。

また、講師の協力によって、バンド演奏に参加することで相手を思いやるなど、青少年の心の成長につながることもできました。そして、その成果を輪音（わおん）で発表しました。地域の大人がレクチャーし、小さな子から大人まで、まちづくりにかかわった子供たちにとっては貴重な経験であり、生きる力を身につける機会にもなったと思います。白井駅前のイルミネーションに、駅前商店会の力を通じて寄附をすることができました。駅前商店会を初め、地域の方にも応援していただいています。あとチャリティーに協力したことで、駅前の活性化につながりました。今年度も持続事業として実施しております。お手元にチラシを配付させていただきましたが今年度は6月23日の輪音（わおん）で披露することになっております。

56ページ、「ひきこもり支援～ハート～」ですが、昨年講座でつながった元大学でカウンセラーを行っていた方と傾聴講座、精神障害者家族会に協力してもらえまして、親亡き後の特別講座をそれぞれ3回ずつ開催いたしました。傾聴講座には、支援する方、される方、さまざまな立場の方の参加があり、すぐにでも生かせると好評でした。また、親亡き後は重いテーマでしたが、自立プランを学び、いろいろな制度を知ることによって、家族の不安の軽減につながったと、どちらも参加者の数から関心の高さが伺われました。ニーズに合わせた事業を今後も展開し、支援していきたいと思っております。

57ページ、人生で大切なことは歴史が教えてくれる、西郷隆盛定期講座を4回行いました。西郷隆盛の生き方や時代背景を学んで、ものの考え方、見方を学びました。参加者がただ歴史を聞くだけの講座ではなく、歴史から今後の人生のヒントを考える講座にできたのは、講師によるところが大きかったです。市民を講師に迎え、地域力を生かした講座となりました。

58ページ、クラシックって楽しいよ、～楽に寄す～、こちらも定期講座でした。市民

の関心が高く定員をふやしての講座となりました。男性の参加が多く、利用者の掘り起こしにつながりました。4人の作曲家の音楽を主に鑑賞する講座でしたが、同じ曲でもアーティストの聞き比べは毎回とても好評でした。市民をコーディネーターに迎えたのですけれども、コーディネーターの知識あふれる話はとても興味深く、ぜひほかの作曲家も続けてほしいと要望が多く、サークル化につながりました。

62ページ、車好き集まれ、自動車の歴史に人の思いを乗せて、車の存在意義とは何か、車の展示用に駐車場を使用するため、初めて11月23日の休日に行いました。昨年に行った1DAY趣味の中の車大好き講座の続編でした。昨年つながった方々に加え、白井市にある自動車大学校や市の環境課の協力を得て、趣味を通じて交流を図り生きがいを目的に実施しました。ラリーカーや電気自動車、アメ車等、クラシックなものまで、愛車で参加した方も多かったです。展示車が目を引き、通りすがりの方も立ち寄り、持ち主の話に耳を傾け交流していました。旧車と電気自動車を一緒に展示することで、市民のエコに関する意識が高まったと思います。市外からの参加してくれた方も多く、地域を超えたつながりを深めることができました。

事業としまして、講座以外に行った事業といたしまして、73ページ、「コミュニティファンド～駅前ファンド～」、昨年度に引き続き、コーヒーやお茶をロビーで販売することやチャリティーライブを通して、自発的に寄附したり資金を提供し合ったりすることで、地域課題を館利用者や地域住民、団体みずからが解決する循環システムを定着することができました。

北総線白井駅前のイルミネーションを行っている白井駅前商店会と、月1回無料で子供たちにランチを提供している、ししばの丘クレープハウスに市民の温かい気持ちを届けることができました。これからも地域のため、まちづくりのために有効に運用していきます。

報告は、以上になります。ことしも白井市が目指しています「ときめきと みどりあふれる 快活都市」に向かって、いろいろな事業を展開していきたいと思います。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、桜台公民館の説明をお願いいたします。

(桜台公民館)

桜台センターは、公民館、児童館、図書室を併設しました複合センターとなっております。ですので、家庭教育、青少年教育に関しましては、ほとんど全てが児童館とともに共催ということでやらせていただいています。

平成30年度は、28年度から始まり、28、29、30年度の3年間の指定管理のまとめという年度になっています。ですので、年間テーマは交流を広げ地域で支え合う場ということで、絆ということを目安にして行った1年でした。

ここに出ております全体の運営方針の中で、地域拠点として役割を果たし、学校、団

体、PTA、自治会などとともに互いに成長し合えるネットワークづくりを行うということを目安に1年間行いました。

それに対する講座が、30年度は毎年やっておりました「さくせん合宿～ナイトウォーク～」が台風のために中止せざるを得なくなりまして、かわりに、流しそうめんを初めて行いました。急遽やることとなり、実施日が1日のみだったのですが、急遽にもかかわらず青少年相談員の皆さんや地域のPTAの皆さんが集まってくださって、運営も全て任せたような状況でした。

「なろう！地域サポーター」という団体育成の講座ですが、こちらは桜台地域を白井の端っこから盛り上げていこうという、そういう講座ですが、この中で「さくらだいの歌」というものを完成いたしました。この「さくらだいの歌」は、地域住民の方から歌詞のフレーズを募集しまして、それをつなぎ合わせまして、地域に住んでいらっしゃる音楽を学んでいらっしゃる学生さんに曲をつけていただいて完成しました。

それを「地域イズムリズムミックナイト2018」という、講座以外に行う事業の中に書いてありますが、初めて行った桜台地域の音楽イベントですが、そこで発表しました。今年度はそれを踏み台にして、もう少し広げていこうというふうに広がっていく事業となっています。

大人の学び講座が各会募集にいまして、毎年何をするかというのをとても頭を悩ませているのですが、今年度はいろいろな事業ができました。なるほど行政講座から消費者講座を、消費者講座とは別に企業の出前講座で金融犯罪の手口と対策、このあたりは白井市でもとてもふえています詐欺の手口などを直接教えていただける講座で、内容的には似たような講座ではありましたが、2回実施したことは、市民の皆さんからはとても感謝されました。講座を聞いた後に、実際はがきが来て対応ができましたという声も聞きましたので、お一人でもそういうことができたのであれば、やったかいがあったなと感じています。

桜台地域というのは印西市に隣接していますので、募集を市外に向けてするべきなのか、市内に向けてするべきかというのをとても考えながら、いつも講座を開いております。その中で、家庭教育の赤ちゃん広場「いちご組」は、必ず市内の方のみで行っています。その人たちを年度が変わると、「サポーター」としてサークルになっていただくという流れをつくっております。サークルの場合は市外の方も呼んでも良いということで、市外のママたちと白井のママたちをそこでつなげ合わせています。また、そこで育ったママたちが今度、子育てサロンの託児ボランティアとして子供を預かってくださる流れになってきています。

それすらも超えてしまったママたちは、今度はサクセン合宿でボランティアをさせていただいて、一緒に子供たちと歩いていただくとか、調理にボランティアとして入っていただくとか、そういう方面でボランティアとしての流れが少しずつできてきているかな

と考えています。

桜台センターからは以上です。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、学習等供用施設からお願いいたします。

(学習等供用施設所長)

それでは、平成30年度の学習等供用施設の事業報告をいたします。

指定管理者の富士センター運営協議会では、市民を主体として組織したNPO法人の特色を生かしまして、地域に根差した事業運営を実施し、地域の拠点となるべく求心力を高めることを運営方針としてセンターの運営管理に臨んでいます。また、世代間交流を重点的に展開することとしております。

それでは、講座の実施状況について、分野別にご報告いたします。家庭教育分野では、親自身の成長や子供たちの視野を広げるための学習機会や、育児の悩みや不安の解消を図れるような子育て中の親同士の交流の場を提供することを目標に、生後2カ月から未就園児までの親子同士が、親子体操や手遊び、ティータイムなどを通して交流を図る「いちごクラブ」や、乳幼児とその保護者及び地域住民が手遊びや誕生会などの遊びやティータイムを通して交流を図る「みるく」など、6講座を延べ23回開催し、延べ1,182名の参加を得ました。

青少年教育分野では、学校、自治会など関係団体と連携を図りながら、おのずから考え、判断し、行動する力を育成するとともに、講座等を通してさまざまな人たちとの交流を図り、地域社会への参加を促すことを目標に、市内小生がものづくりに興味を持ち創造する力を養うとともに、他学年や他小学校の児童と交流する場を提供する子供工作教室や、青少年相談員と共同して近隣の第三小学校、4年、5年、6年生の児童を対象に、自分たちで考え、悩み、相談し、買い物や食事づくり、掃除等を家族の手を借りずに行うことで、家族や仲間のありがたみや大切さを感じとる通学合宿など、5講座を延べ8回開催し、延べ119人の参加を得ました。

成人教育分野では、同じ趣味の人と交流の場をつくり、生涯学習の楽しさや学習意欲の向上、高齢者の悩みに対応した講座の開設、講座の受講からサークル活動への移行支援を目標に世界各国の食文化を学ぶとともに、料理を通して交流を図るランチクッキングや認知症予防に役立ち、家庭でできる運動方法を学ぶ認知症予防ケア講座など、13講座を延べ36回開催し、延べ447名の参加を得ました。

団体育成分野では、子供から高齢者まで世代を超えた学びの場づくりや、地域住民、サークル団体等の交流を深めることを目標に子供から高齢者まで参加可能なグラウンドゴルフ大会を開催し、小学生から高齢者までが混ざったチーム編成でゲームを行うことにより、世代間交流を図る世代間交流グラウンドゴルフ大会やセンター利用の音楽サークル活動に興味を持つ人との交流を図る富士センター音楽祭など4事業を開催し、延べ

210名の参加を得ました。

また、講座以外に行った事業としましては、さまざまな利用により定期的に食事がとれない、一人きりで食事をするなど、食環境に問題のある子供たちの居場所づくりや交流、見守りを図る「ふじっこダイニング」や、センターを利用する各サークル活動や成果を地域住民に発表することにより、住民がサークル活動に参加できる機会の提供と、さまざまな団体や住民が一同に会する機会をつくり、交流、連携、連帯を深め、地域コミュニティセンターの活性化を図る富士センターフェスティバルなど7事業を49回開催し、延べ1,634名の参加を得ました。

以上が富士センターの平成30年度の事業報告となります。

(事務局)

ありがとうございました。

では最後に、青少年女性センターからお願いいたします。

(青少年女性センター長)

お手元の資料の146ページからが青少年女性センターとなりますので、ごらんいただけますでしょうか。

青少年女性センターは、老人福祉センター、障害者の就労継続支援のB型事業所との3館一体の施設となっております。青少年女性センターの運営方針といたしましては、男女共同参画の推進と地域の交流を目的として活動をしてまいりました。

家庭教育といたしましては、子育て支援として、子育て中のお母様方の不安やストレスの解消を図ることを目的として、ペップトークやリフレクソロジー、4Kクッキング等を開催いたしました。また、親子チャレンジとして、共働き等になって親子の交流の機会が減っているということで、隔月で、親子でストレッチですとかゴルフ体験、ピザづくり、パントマイム教室等を開催いたしました。

また、青少年教育といたしまして、夏休みを利用いたしまして、中学生向けには理系離れが解消することを目的として、光るたんぱく質の不思議について学んだり、文章が簡単に書けるようになる必見講座等を開催いたしました。また、小学生向けにおいては、学校区以外の子供たちとの交流を目的に、わらべの集いを開催いたしまして、警察等の協力により鑑識活動体験ですとか、心理的な絵画の落ち着きを目指した羽根のオブジェづくり、あとはドッジボール等で交流を行いました。

また、キッチンサイエンスで、3色の色がどんどん変わっていくケーキづくりを行いました。ケーキをただつくるだけでなく、理科の実験の体験を交えた食事づくりを行いました。また、小学生3年生から6年生を対象とした、おうちシェフということで、少しでも家庭でお手伝いする機会がふやせるようにということで実施いたしました。

成人教育といたしまして、再就職支援ということで就労のためのパソコン講座、Word、Excelを初級編、ステップアップ編、活用編とパソコンの講座を開催いたし

ました。特に、対象といたしましては、母子家庭ですとか低所得世帯の方が積極的に参加できるように利用料の減免等を行い、より参加しやすいような形で工夫をしてみました。

また、ストレスフリーライフといたしまして、ストレス解消を目的としました腸カツですとか体の調整トレーニング、リンパトリートメント、また今後、親の世代を担った介護講座等を実施いたしました。

また、ママのための起業講座ということで、再就職のための講座ではあるのですが、起業、プチ起業等を考えた方たちへの起業講座を実施いたしました。

また、イベント開催としまして、大きく三つのイベントを開催しまして、活動サークルの交流と発表を目的とした「ふくしまつり」、世代間交流といたしまして「こどもまつり」、また男女共同参画イベントといたしまして「フェミナス」を実施いたしました。

また、起業講座に参加した終了者が出店の場の機会となるよう、清戸の杜プチマルシェを毎月開催しております。また、ひきこもりがちになっている方等の自分のペースで参加いただくための「こころのC a f e」も実施してまいりました。

あと、建物が30年たっているというところで、老朽化による電気系統のトラブル等で3月から一部使用できなくなる部分等も出てきておりますので、今後も引き続き対策のほうを講じてまいりたいと思います。

青少年女性センターは以上です。

(事務局)

ありがとうございました。

各館より、今、報告がありましたとおり、地域の現状や施設の課題等を捉え、まず総合計画の将来像を目指すため創意工夫をしながら、数多くの講座を実施いただいております。

今の説明を聞いた中で、委員の皆様のご意見を踏まえながら、今後の講座に生かせるよう、またよりよい事業運営をしていければと思っておりますので、よろしく皆様のご意見をいただければと思います。

以上で、昨年度の各公民館及び類似施設の事業報告を終了いたします。

(委員長)

ありがとうございます。ただいまのご説明に対して、ご意見、ご質問、また感想等でも結構ですので、忌憚のない声をお寄せいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

これはセンターのほうにお聞きしたほうがいいのか、事務局のほうにお聞きしたほうがいいのかわからないのですけれども、学習講座事業の中に四つ項目があって、家庭教育、青少年教育、成人教育、団体育成というものがあるのですが、成人教育と団体育成の講座の内容を見ても、これどっちに入るのだろうかみたいなのが割とあって、団体育成

の中に入っているものの中でも、内容を見ていくと成人教育のほうに当てはまるんじゃないのかなというのが幾つかありますので、その辺はどういう分け方をしているのか、お伺いしたいと思います。

(事務局)

事務局よりお答えいたします。

学習のまとめの8ページをごらんいただきたいのですが、学習講座事業のところの対象が、家庭教育、青少年教育、成人教育、団体育成ということで四つに分かれています。

今、清水委員のご質問で、成人教育と団体育成の違いはということだったのですがけれども、生涯学習課のほうで、この4項目を分けさせていただいているところです。

基本的には成人教育というのは個別の講座というイメージで生涯学習課のほうでは捉えているところです。団体育成というのは、どちらかというところサークル化していただきたい、もしくは各団体と協力してやっていただきたいということで、個と団体という形での大きい枠組みで捉えているところにはなっております。

ただ、今、ご指摘のあったとおり、内容によって、これは成人教育のほうじゃないか、団体育成のほうなのじゃないかというところはございますので、今後の課題といたしまして、こちらを提出していただいた際に、こちらは団体育成なのか成人教育なのかというのを各センターに確認をした上で、表の整理等をしていきたいと考えています。

(委員長)

成人教育のほうが、個別の学習ニーズに応えるような事業が中心で、団体育成のほうで、団体と協力をして講座を実施したり、講座をきっかけにサークル化を目指すようなことに主眼を置いた事業ということで線引きをしているということでした。

ほかにはいかがでしょうか。ぜひ遠慮なさらずご発言いただけたらと思いますが。

すみません、進行役なのですが、私からもよろしいでしょうか。先ほど、事務局もおっしゃっていましたが、どの館もきちんと運営方針を持ちながら、それに基づいてさまざまな工夫を凝らし、本当に多彩な取り組みを展開されていて、一市民としてうれしいな、心強いなというふうに思って、ご報告を聞かせていただきました。

とりわけ私個人が印象的だったものを少しお話ししますと、例えば白井駅前公民館の「ひきこもり支援～ハート～」は、切実な困難を抱えている住民の生活課題に応えるような、とても大事な事業だと思いました。また、桜台公民館の「なろう！桜台地域サポーター」は、地域づくりのキーパーソンを育て、つなげていこうという事業で、これも興味深く感じました地域の歌をみんなで作ったというのも、とてもおもしろい取り組みだと思いました。

また、富士センターでは、「認知症予防ケア講座」のように高齢の方たちのニーズに応えるような取り組みが行われていたり、また、「ふじっこダイニング」ということで、子ども食堂のような事業が実施されていてこうした事業が更に充実して、広がっていくと、

誰もが安心して暮らし続けられるような白井市をつくる上で大きな力になっていくのではないかなと思いました。これからもぜひよろしくお願いいたします。

あと一つ、質問も、あわせてよろしいでしょうか。昨年度の報告書も拝見して、そのときから疑問に思っていたのですが、白井市の公民館では、参加者負担金を徴収する講座がたくさんあるわけですが、負担金を取る講座、取らない講座というのは、どのように区分しているのか、また取るとすれば、どういった基準で負担金の額というものを算出しているのか、参加者負担金の徴収について、何か基準やルールがあれば教えていただきたいと思うのですけれども。

(事務局)

まず講座の自己負担金についてのルールは、特に市のほうから定めておりません。ただ、やはり公民館という場を考えた適正な金額でということをお願いしたいと話しているところです。

自己負担金の基本的な考え方といたしましては、もちろん事業を運営する各センターも負担することは重要と考えているのですが、やはり食材費とか教材費の実費負担分は本人からいただくという形で、どこのセンターも捉えているものと考えております。

(委員長)

ありがとうございました。今、実費という説明でありましたけれども、予算・決算の部分を見ますと、単に実費だけではなくて、講師謝金までも参加者負担金から賄っているのかなと思われる部分があるのですが、それは違うのですか。

(事務局)

決算のところに入っているのは、センターで支出しているところも全部踏まえた中での決算となり、基本的には講師料とかそういったものについては、各センターのほうで負担しているものとなります。

(委員長)

それは、市から指定管理料として払われている部分で講師謝金は賄っていて、講座の参加者が負担するのは、材料費等の実費だけということですか。

(事務局)

そのとおりです。

(村委員長)

では、受講料や参加料を徴収しているわけではないという理解でよろしいですね。

(事務局)

そのとおりです。

(委員長)

承知しました。ありがとうございます。

では、ほかにいかがでしょうか。

(委員)

お話は、十分丁寧だなと思いました。ものの見方なのだけれども、これだけいいデータをとって利用状況とか人数とか件数とか、かなりデータ的にはっきりしたものがあるので、これを単年度で見ると多いなとわかるのだけれども、経年で見ると何がふえて何が減っているとかいうのを見ると、何かそこに原因があるのかなというのがわかるかなと。少し経年で見えていく必要があるかなと。高齢化の問題だとか、いろいろ一般論では言われているのだけれども、そこも層別してあるから、経年で見れば何かのヒントになるのかなという感じがします。折れ線グラフなどで、経年で5年ぐらいというのも一つの見方だろうという感じがします。

(委員長)

ありがとうございます。貴重なご意見だと思います。単年度だけのデータを見るのではなく、経年変化を見ることでいろいろな課題も発見できるのではないかとということで、ぜひ次回以降の会議で、可能であれば過去のデータ等とも比較した資料や説明をいただけるとうれしいなと思います。

(委員)

委員のお話とも絡む点なのですが、まず、最初に感想としては、本当に皆さん、市民、地域の方たちに来ていただくような思いがあふれるキャッチーなテーマであったりとか、毎年本当に参加したいなと思えるようなテーマを考えられているところがすばらしいなと思いました。

特に、参加人数のところは、私は決して多ければいいというものではないと思うのです。参加した方の中で1人でもよかったと喜んでくださる方がいるのはとても評価できると思います。けれども、一つ気になるのは、今後の企画とかにも、いろいろ参加者の層というものにも関連すると思いますが、初めて来られた方なのか、それとも同じような方が毎回同じような事業に参加しているのか。これはもちろん同じ方がいろいろなものに参加してくださるのも、それはすごく評価できると思いますが、今回こういうテーマでやったら新しい人が多かったよというような事業に関しても把握しておくことで、また新しい層、もしくはまた、その方がほかのお友達を連れてきてくださったりとか、どういう感じに広がっていくかというような影響が何となくわかりますと、企画側のほうに何かいい情報が得られるのではないかとに思いました。以上です。

(委員長)

これも貴重なご意見だと思います。

ただいまの坂井委員、鈴木委員からのご指摘について、どのような状況でしょうか。

(ワーカーズコープ白井地域福祉事務所長兼西白井複合センター職員)

現在、ワーカーズコープは指定管理者で、西白井複合センターと白井駅前センターを指定管理させていただいております。

先ほど、委員からもありました件についてですが、私も毎年いろいろデータ数値を見ていまして、考えるところですが、如実にあらわれるのは、例えば団体育成ということであると、ことし講座を二つやります。そこから団体が二つ立ち上がって、その後、まだ立ち上がってはないのですけれども、それらに如実にあらわれていて、当日は結構利用率は低いのですけれども、去年、ことし、どんどん利用率が上がっていきまして、まず、そういうのが上がっているというのと、あと西白井複合センターは複合館ということもあって、全体的に利用率が高いのですけれども、ここだとなかなか来られないという方がふえまして、そうすると別のセンターに行くと利用される方がいたり、逆に別のセンターの方から、去年駐車場が大きくなりましたので、西白井を利用されるということで結構、循環しているのがあって、私もほかのセンターに行くと、色合いの違いとか、いろいろ参考になったりとかあることもありますし、そういった意味で市民の方がいろいろなところに行ったりとか、そういうのもあってという部分もあるのじゃないかなと感じているところではあります。

(委員長)

ありがとうございます。

ほかにはよろしいでしょうか。

では、議題の1番目についてはここまでにしたいと思います。今、各委員から出された意見も受け取っていただき、今年度以降、さらなる事業の充実を目指していただけたらうれしいです。よろしく願いいたします。

では、続きまして、議題の2番目に移りたいと思います。

議題の2番目は、「社会教育関係団体の育成のためのサポートのあり方について」です。こちらについても、まず事務局のほうから説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、生涯学習推進委員会におけるテーマ「社会教育関係団体の育成のためのサポートのあり方」について今後の進め方も踏まえ説明します。

まず、前回の会議において委員の皆さまにもご承認いただきました「社会教育関係団体の育成のためのサポートのあり方」についてですが、最終目標としては提言書または提案書のような「かたち」として書面にし、教育委員会へ提出という形を取らせていただければと思います。

いきなり提言書等の書面のような形をイメージしていただくために、先に参考資料として守谷市社会教育委員の会議が作成しました資料を同封させていただいております。こういった形のを最終的に作成したいと考えております。

事務局といたしましては、誰かが書いたものを皆様に確認していただくのではなく、会議の中で意見を取りまとめ、少数ページでも「皆さんでつくりあげたもの」としていきたいと考えております。様々な分野の皆様が集まっているからこそ、様々な側面

からの意見を少しずつでも入れて作成していければと思います。

今後のスケジュールについては、お手持ちの資料にもありますように、臨時会も含めると本日も含めると最大で7回となります。ただし、最後の1回は最終確認程度となると、4～6回となります。

本日はこの後、まずは皆さんのアンケートをもとに、今抱えている課題を掘り起こして、それをグループ分けしていく予定ですが、さらに事務局で整理したのち、委員の皆さんにフィードバックをし、わけたテーマを1テーマずつまとめていきたいと思います。

その都度、委員の皆さんにアンケート等でのご協力を今後もお願いすることもあるかと思っています。

今日は、参考資料として、各館のサークル数や社会教育関係団体、利用人数、利用率などをまとめたものを一緒に送らせていただきました。

各館の月ごとの詳細については、学習のまとめに各館ごとにございます。

平成29年度と30年度の違いの一つは、使用料の見直しを行い、使用料金が引き上げられました。その使用料金の見直しにおいて、今まで17時以降の夜間料金を廃止し一律料金となりました。

料金が引き上げられた状況の中、市としては利用率、利用者数の大幅な減を想定しておりましたが、想定していた減よりも減少幅が少なく、利用者においても今まで必要以上に予約して部屋をおさえていたものが、必要最低限の予約にする団体も増えてきているために本来使用したい団体も使用できているのではないかと思います。

しかし、この料金改定においてサークルの高齢化に伴い存続が難しいサークルが、良い機会となったのでサークルを解散することにしたという話しも聞いております。それは、今回の社会教育関係団体の見直しにも同じようなことがありました。

また、施設の利用率においても大きな差があり、駅周辺の西白井及び白井駅前公民館においては、比較的高い利用率で施設の予約がしにくいという状況でありながら、比較的使用しやすいコミュニティ施設でありながらも駅から遠い公民及び白井コミセンにおいては、車での来場が基本となっているため、どうしても利用が伸び悩んでいる状況があります。

そういったことから、各抱えているサークル数においても幅があるところです。

各館で活動しているサークルはやはり高齢化が進んでおり、また、若い世代の利用についてはどこも伸び悩んでいる状況は利用率に関わらず同じ状況ではあります。

そういったことも踏まえつつ、委員の皆様が率直に感じることも聞きつつ、課題を整理していきたいと思っております。

以上で説明を生涯学習推進委員会における今後のテーマについて終了いたします。

(委員長)

ただいまの事務局からの説明に対して、何か質問等がありますでしょうか。

これから「社会教育関係団体の育成のためのサポートのあり方」について、2年間をかけて議論し、本委員会としての意見を集約した提言書のようなものを作成し、それを教育委員会に提出をする。このような見通しで進めたいというお話しでした。また、併せて、公民館の利用団体や利用状況についての課題も説明いただきましたが、いかがでしょうか。質問等は、特によろしいですか。

では、続けて、皆さんにご協力いただいたアンケートの内容について共有していきたいと思います。ご記入いただいた内容を順番に説明していただき、事務局には、それを整理しながらホワイトボードに書き出していただきたいと思います。

では、お手元の資料（委員が回答したアンケートのコピー）の順番に沿ってご説明をお願いいたします。

まず、私からです。「率直に感じる地域の課題」ということでは、少子高齢化・人口減少の進行に伴う課題を挙げました。白井市の人口ビジョンを見ましても、令和2年度から人口が減少に転じ、生産年齢人口の減少、高齢化が進行していくという推計が示されています。白井市でも、少子高齢化・人口減少の局面に入っていきます。そうした中で、私たち市民の生活や、生活基盤である地域の姿、10年先、20年先と大きく様変わりしていくように思います。

そこで、とくに心配なのが、もう行政サービスだけでは、多様化・複雑化していく市民ニーズに対応し、市民生活を支えるのは難しくなるだろうということです。市民同士がもっとつながりを深め、相互扶助関係、持ちつ持たれつお互い様というところで支え合えるような、地域社会をつくっていかねば、この先、私たちの暮らしは立ち行かなくなってしまうのではないかと考えています。このように、「ともに支え合える地域をつくる」ということが、地域の課題だと思います。

次に、「関係団体やサークルの課題」としては、4点ほど上げました。1つ目は、新しい会員がなかなか入ってこない、サークル活動等に広がり生まれていかない、ということです。

また、2つ目は、会員が高齢化し、活動の継続が難しくなっているような状況があるのではないかとということです。

また、3点目は、表現がよろしくないかもしれませんが、活動がタコつぼ化しているような状況はないだろうかということです。同じような活動内容のサークルは、地域にいっぱいあるわけですが、それらのサークルがもっと交流を深めることができれば、もっと活動が盛り上がってくるのではないかとと思うのですが、自分のサークルの中だけでの活動に留まっていて、他のサークル等との交流がうまくとれず、やや閉鎖的になっているのではないかとと思います。

4点目に挙げたのが、失礼な言い方かもしれませんが、会員の皆さんの主体性が弱まっていて、逆に講師が主体の私塾のような状況のサークルも増えているのではな

いかと思います。

次に、「率直に感じる市の生涯学習や社会教育の課題」という項目についてです。1点目は、白井市において、社会教育計画・生涯学習推進計画が未整備であることです。きちんと計画を策定をし、その計画にのっとって社会教育行政・生涯学習振興行政を進めていくということが大事ではないかと思います。「社会教育関係団体やサークルをどのように支援していくのか」ということについても、きちんと位置付けられた計画が必要だと思います。

2点目は、先ほど質問させていただいたようなこととも関係して、私が誤解していた部分も結構あるので、ここは飛ばしたいと思います。

3点目は、団体・サークルの育成・支援を進めていく上でも、生涯学習課や公民館等に専門性を持った職員を積極的に配置していくということが、とりわけ重要ではないかということです。生涯学習課（教育委員会事務局）に十分な数の社会教育主事を配置すると同時に、公民館にも「社会教育主事資格をもった職員」を更に積極的に配置して、丁寧に住民と向き合いながら、専門性をもって学習活動をサポートできるような体制を今以上に充実させていくということが必要なのではないかと考えています。

裏面をごらんください。

次に、「団体の面から考えるサポートの必要性」ですが、現在、地域でサークル活動を行っているわけではありませんので、団体の立場から論じるということではできません。

そこで違う切り口からアンケートに答えたのですが、「今、市内の関係団体やサークルの皆さんが、活動を進めていく上で、どんなことに困っておられるのか、行政に対してどんな支援を具体的に望んでおられるのか」を、直接、きちんと聞きとりなりアンケートなりを実施して、正確に把握しながら、サポートのあり方を考えていくことが必要ではないかと思います。

次に、「市民の面から考える関係団体へ望むもの」という項目についてですが、1点目は、閉鎖的にならず、広く市民の皆さんに開かれた活動を展開してほしいということ。

2点目は、素朴な希望ですが、主体性を持って仲間と一緒に生き生きと元気に活動してほしいということです。その積み重ねが、市民同士の豊かなつながりをつくることに結び付くと思います。

また、3点目は、行政として強制すべきではありませんが、仲間と一緒に取り組んでいる学習・文化・スポーツ活動の成果を、より積極的に地域に還元し、白井の地域づくりに一役買っていただきたいということです。

次に、「行政の面から考える支援のあり方」についてですが、抽象的ですが、「支援に当たっての基本的な視点」ということで書きました。社会教育関係団体、サークルというのは、あくまで自主的・主体的な活動を行う「公の支配に属しない団体」でありますので、そうした団体やサークルに対して、「不当な統制的支配」や「活動への干渉」につ

ならないような、「求めに応じた支援」を心掛けることが大切だと思います。

私からは、以上になります。

次に、委員、説明をお願いします。

(委員)

基本的に私一番感じるのは、リーダーが社会教育という、そういう概念で動いているのか動いていないのか、私は非常に疑問だと思います。この委員会の中では社会教育性というものをうたって討論しているわけなのですが、では、実際の主体的なリーダーたちは、どのぐらい感じているのか。極端な悪い言葉で言えば、趣味の会、先ほど私塾という言葉がありましたけれども、そういう意味で、もちろん今回の団体の認定とかありましたけれども、それは実は認定されても、そういうのは意識しないよという部分も十分ある可能性もあると思うのです。

だから、一番基本的なそこを我々が社会教育委員だとすれば、社会教育というものをどのように感じているのか、感じていないのか、その部分をリーダーを中心に一度、説明会でも討論会でも、こういうところが主体になってやったらいかかかなと思います。

それがまた、さらに地域性という問題については、改めて市のほうのこれも都市計画の一つだと思うのですが、校区という今回決定がされましたね。防火防災が中心の考えだと思うのですが、校区による自治会の利用の仕方というのは、非常に具体的な線引きができると思うのです。校区を利用した交流、社会教育活動というのが有効ではないかと私は勝手に思っているのです。

その地域性というのは、結局はなかなか、駅前センターだから、こちらの白井駅の周辺の人がもちろん集まるのですけれども、ある意味では校区の役目をしているのですけれども、せっかく小学校を校区として有している。また自治会というまとめ方で行ったわけですから、かなり防火防災というのは、もちろん重要な日常生活を応援する意味では重要なことだと思うのですが、そこを加えた利用の仕方というのはないものか、地域の社会教育活動に利用できるのではないかと私は思っています。非常に雑駁なのですが、以上です。

(委員長)

簡潔に要点をまとめてお話をいただきました。ありがとうございます。詳しいところはまた、委員がペーパーに書かれていますので、各自ご確認いただければと思います。

続きまして、委員、お願いしてよろしいでしょうか。

(委員)

私もこちらのアンケートというか、全体的に思うこととして、今、委員からおっしゃったような校区、学校区のことですね。今、小学校区で多分いろいろ進めていると思うのですが、ほかのところでもこういった会議とかに行っているのは、それぞれのところで地域の課題とか、いろいろな問題を上げているのですけれども、そこが横のつな

がりがないというのを、すごく感じています。

多分それぞれが地域の問題、課題というのは抱えていて、どうしたらいいのだろうという問題を提起したりとか、問題解決に向けて、こうしてみたい、ああしてみたいという思いはあると思うのですけれども、それがさまざまなところで行われているというのはすごく感じています。

今、こちらの社会教育関係団体というものの視点からの話は、今後の委員会のなかで検討していくと思うのですが、地域の中でこの社会教育関係団体というのはどういう役割をしたほうがいいのかというのとも考えていくべきじゃないのかなというのが思います。

多分、今、認定団体というのはもともとたくさんあって、使用料が減免になるというところから多分入っている団体さんもすごく多いと思うのですけれども、先ほど委員がおっしゃられた意識の問題というのもあるので、地域の中の社会教育団体の役割というものが、すごく、いろいろな団体があり、趣味のサークル、高齢者にかかわる団体、若い世代にかかわる団体といろいろあると思うのですが、その中で白井市社会教育関係団体に認定された団体というのがどういった役割をしていかなければいけないのかというのが、今後の問題というか、今後考えていったほうがいいんじゃないのかなというの思います。

(委員長)

ありがとうございます。

続いて、委員、よろしく願いいたします。

(委員)

皆さん、似たような話が出てきていますけれども、一つは高齢化、地域じゃなくて日本全国当てはまりますけれども、去年、県の文化団体というところにいたので、そこで我々みたいなことをやっているのがあって、30ぐらいの団体が集まって出てきた問題、我々も全く同じだと言っています。要は何が大変かということ、後継者がいなくなっちゃうということ。これを意識してやってもなかなか、次は頼むよということでも、これがいなくなっちゃうと、存続そのものが難しい状況です。若い人になるべく入ってもらって、協力してもらい、いろいろ手伝ってもらいながら努力していますけれども、これは相当、多分うちだけじゃなくて、ゆゆしい問題かなと思います。

それから、2番目ですけれども、これはリアルにもものを書きましたけれども、そういうふうになると、ついつい運営がマンネリ化しちゃうのか。ここは本人は気がつかない。マンネリ化しているということは。そういう問題が出てきます。

その次が、今回の減免措置の扱いについて、ある意味で近藤さんがおっしゃったとおり、そんな意識を持っていないところも多いです。多分、会則に目的と書くのだけれども、社会教育関係で頑張りますかと、ほとんどの数はないです。皆さんと同好会で集まって、こういうことをやりましょうとか、結果的に社会の中で役に立つというぐらいの

意識だと思うのです。それで今までは百何団体減免を受けていた。ことしは改正して、そういうのをきっちりしましょうということで行ったけれども、今まで減免を受けていた人に対して減免がなくなるということを、意識してケアしないといけないというのを感じます。

というのは、団体とも接する機会があるので聞くと、いきなりこんなに変わると、だめなんだよというネガティブな反応が結構あるものだから、納得しないというか、趣味だけでやっているのはだめだよというのが正直なところだけれども、少しはやっていることもあるわけです。公益的なものを少しはやっているつもりだけれどもというのがあるので、そこらほうまくケアしないと、我々が狙っている方向よりか逆方向に行ってしまう。

それを書いたのが下にありますがけれども、税の適正化というのは当然で、受益者負担が当然なのだけれども、その中でちょっとやっていると、これをすくい上げていくというか、よくやっているねということも大切かなという感じはします。これは、どれぐらいの数字になったかわかりませんが、そこらは意識してやっていく必要があると感じます。

それから、次は、これは継続性を保つのは、どうしてもマンネリ化の話になりますが、運営の工夫もだけれども、こういうインセンティブを与えてやらないと、僕が子供を相手にすると、二、三回休むと来なくなります。これは落ちこぼれをなるべく救う。これは、運営の問題です。

それから、市民の面から考えるという、市民のニーズと捉えて整理しましたけれども、文化団体協議会、私、属していますけれども、5回主催事業をやりました。毎回来訪者の方にアンケートを協力してもらったのですけれども、一番多いのが、子供が出るとか、おじいちゃんが出るとかいうのと、あるいは知っている人が一緒になって出るので喜ぶ。パフォーマンスを観客の前で披露したとか、そういったものがかなり数字的には、参加者もそういう面では多くなっていることが言えます。これは当然だと思うのです。

あと2番目です。ダンスであったり芸能であったり音楽であったりということで、いろいろ5回やってきましたけれども、ジャンルによって、皆さん好みありますが、高齢の方が非常にありがたいなということが、若い子に「みんな入りなさい」と言うと、入ってくれる。そうするとアンケートの中で、来年も同じことやって欲しいというのが結構あります。

去年落語をやりましたが、来年も落語をやってほしいという。これはいいのだけれども、我々としては捉え方を気をつけないといけない。市民のニーズは、無料でそういうところが体験できるというのは非常にありがたいなというのはいいのだけれども、運営側は考えなければいけない。でも、無料というのは魅力なのかなというのが一つ。

それから行政面、これは一般論になっちゃいますけれども、先ほどの話とも絡むみま

すが、これから頑張ろうかという団体があれば、それを支援する工夫がいるのかなと。それから、ここで議論しなくちゃいけないけれども、具体的に何がいいかなという、具体策を詰めないと、理屈ばかりというのがあります。

自由意見です。文化祭を毎年やっています。これは市と共催ということで、今、文化祭実行委員会と市、共催でやっています。一層の活性化と書きましたけれども、これもやっぱりある意味ではマンネリ化しつつある、そんな傾向があります。

ということで、文化祭関連のほかの団体と、文化団体以外の団体とコラボレーション、そういったものができるかなと思う。具体的には、白井高校さん、これは今までは音楽だけ一緒にやっていました。去年からダンスも一緒にやって、それから去年は美術、それから書道、これも去年、ことしはもうちょっと写真まで広げて、できれば若い世代と一緒にやっていったらどうかなと。それは進行形で動いていますけれども、そういうことが一つ。

もう一つは、スポンサーに協賛していただいて、スポンサーも参加していただくようなやり方をしているところもあるみたいなので、そこらも参考にできればというところでは。

(委員長)

次の議題にも関係しますが、社会教育関係団体の認定基準が見直され、認定されない団体もかなり出てくるのではないかと思います。そういった団体をどうケアするのか、フォローアップするのかということも含めてご発言いただきました。ありがとうございます。

続きまして、委員、お願いしてよろしいでしょうか。

(委員)

きょうの会議をしていて思ったのは、先ほど委員がおっしゃったように、社会教育の視点からということ意識させられたのですけれども、各団体が、果たして、趣味の域で皆さんやっつけらっしゃるので、そういう意識があるかどうかと思います。

私は今、自分で社会、地域の点であるのだなというふうに感じたのです。なので、その部分が、そういう趣味を通して、コミュニティとしてつながっていく必要を私たちがどうしていくかということだと思います。

あと、市民の面から考える社会教育関係団体へ望むものということになるのですが、情報の提供の仕方、無関心から関心へという簡単に書きました。各センターへ行くと一応一覧表みたいなのがあって、そこで探せるのですけれども、それは、関心があつて行くわけです。広報とかいろいろなところで、それも関心があると見るのです。もうちょっと無関心の人が、ああこんなのあるのだと何となく、お祭りとか行って発表されるものを見て、入りたいなと思われる方もいるのですけれども、少しそういう仕方を工夫するのもいいのかなと思いました。

もう一つ、前後しますけれども、団体の面から考えるサポートの必要性というのは、私も団体に入っていますが、どれほどのお手伝いができるかはわかりませんが、何かこういうことでお手伝いしていただけないかというオファーをいただければいいかなと思います。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。では、続けて委員よろしくお願ひいたします。

(委員)

率直に感じる地域の課題ということから、下にさがってお話しさせていただきたいのですが、私も皆さんお話しになったように、高齢化がやっぱり問題かなというふうに思っています。

私事なのですが、来年自治会の3回目の役員をやることになり、周りもほぼ30年前と同様の状況で、そっくり30歳持ち上がっているという状況になっています。結果、イベントの数も縮小の傾向にあります。理由はやっぱり高齢化で、なかなか体力がくっついていかないというのが大きな理由でした。

私自身のごみ出しも10年後は大丈夫なのかなと、周りでも心配な方がおります。自治会活動も成り立つのかなというのが心配です。社会教育団体やサークルの構成メンバーもほぼ同じようなおそれがあるのかなと。若年層に魅力あるサークル活動の創設等々で、若い人を取り込んでいくのが優先事項かなとも思っております。

それと、地域別に住民の年齢の構成分布は、大きく異なっているのではないかと思うのです。私の住んでいるところは、私を含めて、おじさん、おばさんばかりなのですが、例えば西白井三丁目、四丁目は、小学生の子供、若いご夫婦の方ばかりです。そうしますと、サークル、それから教育に関してのニーズも大きく異なってくると思います。そういうふうな、どう対応していけばいいかなというのが問題と課題だと思っております。

その下の社会教育関係団体やサークルの抱えている課題は、今お話ししたことと重複しますので、割愛させていただきます。

一番下の市の生涯学習や社会教育の課題ということで、今、市が行っている生涯学習の内容、それから多岐にわたって、全体像がなかなか見わたせません。課題として、前々回でも皆さんからお話あったかと思うのですが、縦横、整合がとれているのかなということをおもっています。縦割り事業の弊害というお話もございましたのですが、関係部署間の連絡会議があるということでしたのですが、その会議の中に、社会教育団体の代表だけじゃなく、なるべく多い方がいいと思うのですがけれども、交えて意見交換、将来に向けての話し合いもなされたほうがいいかなというふうに思っております。

裏に行きます。団体の面から考えるサポートの必要性は飛ばさせていただきます。

市民の面から考える社会教育関係団体へ望むものということになりますが、新しい組

織に入るということは、なかなかハードルが高いという気がします。私も会社を卒業して、何かボランティアをという思いの中で探していたのですが、なかなかハードルが高くて入れない、たまたま市民大学の中で新しいボランティア組織を立ち上げますよというお話がありましたので、それならみんな横一線だと、新入社員じゃなくて済むということで入って、今3年目のボランティア活動に参加している、させていただいているということになります。

さらに、メンバー増加のためには、サークル内容、社会教育内容の積極的な広報宣伝活動が必要なのかなど。しろい暮らしの便利帳という大きな立派な冊子があるのですがけれども、確認したところ、3年か4年に1回だということでもったいないなど。むしろこういう団体の活動内容、入会要項等々をここに記載して、各戸配布することができれば、費用はかかるとは思いますが、支援策になると思っています。

それと、市民大学校等で、サークルの網羅的紹介、入会もひっくるめて、どんな活動をしているのか紹介する必要があると思っています。市民大学参加者は、非常に前向きでポジティブな方が多くて、ボランティアを二つも三つもやっている方もいらっしゃるし、やってないけれども、ボランティア活動を探しているのだという方もいらっしゃる。そういう方をキーマン、核の人間にして拡大していければいいのかなというふうに思っています。

それから、行政の面から考える団体やサークルへの支援のあり方ということですが、認定の可否や教育の場の提供を行えているか否かで、同好の士が集まって楽しむこと、さらに、それを対外的教育の場に拡大できるか否かで団体認定の可否が決まってきます。

同好の士が集まって楽しむということを通り越して教育の場ということ、これはボランティア活動じゃないかという気がして仕方ないのです。ですので、このボランティア活動を評価することで活性化の支援になるのではないかなと思っています。

評価とは具体的にどういうことかということ、活動実績に対してメリットがふえる、たまたま使用料の半額支援みたいな形になっています。さらに別のメリット付与ということが考えられないかなというふうに思います。そうしますと、ボランティアじゃないじゃないかという話にもなるかと思うのですけれども、そういうふうに思っています。

それと最後に、自由意見ということなのですが、今回の宿題は、社会教育関係団体に対して全く知識の薄い私には非常に敷居が高くて、さらに突き詰めますと、まとめじゃないのですけれども、支援教育団体の支援活性化が、若年層の取り込みも含めて入会のハードルをどう下げられるか、実績を評価して次の活動にどうかすかに尽きるかというふうに思います。

法律用語と言うのですか、法令用語と言うのですか、社会教育関係みたいな言葉がどうもなじみません。いかにも、行政的ワードというか、お上のワードのような感じがして仰々しい感じがします。違ふ言葉に置きかえられると、多少入会ハードルも下が

ってくるのかなど。何とかかんとかサークル活動等々の言葉を使ってもいいのかなというふうに考えています。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。

続きまして、委員、よろしく願いいたします。

(委員)

まず、地域の課題ということで、白井市に限らず、子供も大人も大変忙しい世の中になっているので、そういったあいた時間を使ってそういう活動に参加していくとか、そういうことを起こすとかいうのは、とてもやりにくい世の中なのだろうなというのを感じています。

また、社会教育団体というふうに冠がついている団体は安心なのですが、そうじゃないサークル活動に参加しようと思ったときでも、本当にどういった団体なのかという信頼性がないと、入ってから何かの勧誘に遭うのではないかという不安感を持っていらっしやる方が多いようには感じます。幼稚園をやっている関係上、保護者とそういった話をする事が多いので、その辺が参加しづらいという原因になっているかもしれない。なので、社会教育団体という冠がついているところは、思い切り前に出したほうが参加しやすくなるかなと思います。

子供のころから生涯学習に触れる機会がある、学校教育とは別の機関に教育されるというか、活動するということが生涯教育というようにあったような気がしたのですけれども、となると、小学生、中学生、高校生は生涯学習に参加しないという感じになります。その子供たちが参加する活動も既にやっていると思うので、これも生涯学習の始まりで、小さいころから地域での教育の場に触れると、学校では学べない何か、特化したものであったり、学校の勉強では学べない、得意じゃないけれども、その活動に行くと、すごく自分が充実するみたいなものがあるということを知ると、大人になってもそういう活動を起こしたり、参加したりというふうにつながるかなと思うので、親に連れられてではなく自発的に参加したくなるようなのがあれば、おもしろいかなと思います。

それは失礼な言い方かもしれませんが、生涯学習と社会教育というと、吉弘委員がおっしゃるように、すごく大きなものになるのですが、僕はもともとは地域のおじちゃん、おばちゃんたちがやっていた楽しそうなことに、近所の子供たちが集まって何かを学んでいったことの発展系だと思うので、となると、小さいころから触れられていること、それから後段でお話ししますけれども、参加しやすさ、離れやすさ、思いついたらもう1回行きたくなるというような感じができるといいのかなと思ったりはしています。

次で、社会教育関係団体、サークルが抱えている課題というところで、多くの方がおっしゃっていますけれども、趣味の域から社会教育に進むには、とてもハードルが高いと思います。指導力であったり、コミュニケーション能力とか、広報活動とか、経済的

な部分とかというのがないと、なかなか大きな活動にはつながりにくいという印象を僕は持っているので、市の生涯学習や社会教育の課題というところでは、団体の自由と信頼性の確保をしながらというところは、ほかの委員の方も委員長さんもおっしゃっていましたので割愛します。

広報活動では、ほかの方もおっしゃられるように、どう広く知らしめて、行ってみたいというものに触れる機会をふやすかということで、動画とかを見る機会が今の若い子たちは特に多いですから、そういうところに上がっているものを見ると、行きたいと思うのかもしれない。そういう広報的なところで支援があればいいのかなと思います。高齢化になれば、よりそういうスキルを持っていない団体運営者が多いかと思いますが、これはこの後の市のサポートにつながってくるものにもなります。

学校施設そのものであったり、学校で教育をやっていた方が、そういった団体にお手伝いに入るといって、団体の会員になるのではなく、内容によってはお手伝いしますよというようなことがあるといいのかなと思ったりしています。

社会教育団体以外の団体との横のつながりということになるのですけれども、有料でやっている団体がありますね、ダンスであったりいろいろな。そういった人たちが、そのときだけ参加するとか講師になるとか、入ることができるといいのかなと思ったりしました。

団体の面から考えるサポートというところで、これは僕も団体運営したことがありませんので、それをどういうふうに運営すると、あなたのやっていることはもっと広く社会に貢献しますよというアドバイスをしあげたりするといいのかなと思いました。

あと申請書類なのですけれども、どうしても行政手続が入ると書類が多くなりますので、僕も幼稚園を運営していくうちに、認可をもらうとか許可をもらうというときに書類は物すごく膨大になるのですが、それが煩わしくて、もういや、と思うことがあります。書類申請のときに、それをサポートしていただける方、もっと簡単になるというか、何か自分がつくっているもので代替できるとか、そういったふうになると簡単かなと思ったりします。これは社会教育団体になるための部分のことしか書いてありませんので、済みません。

市民の面から考えるというところで、これは先ほどの繰り返しになりますけれども、入会、脱会のやりやすさ、続けやすさ、参加したことで、自分がどんな楽しいことに出会えるかということの情報があるといいかなと思います。うちの職員に聞いたところ、やっぱり何となくハードルが高いですというのを聞いています。

行政の面からのサポートでは、先に話したことで重複しますので割愛しますが、全て公民館さんかセンターさんがやっている活動を申しわけないのですが、私はここでしか知らないのもっとたくさんの方がそれを知る機会をいかにつくるかというところは、とても重要な気がします。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。委員は、お仕事の都合でご退席されましたが、委員からもアンケートにご回答いただいておりますので、各自、お目通しください。

委員も、よろしければ、ご意見をいただけないでしょうか。

(委員)

まず、言葉の定義なのですけれども、社会教育関係団体、これが実際、受け手の市民からすると、どういう言葉で感じるのか、受け手の市民がどういうことを求めているのか、そこと剥離した議論というのは不効率だなどは思っています。

そもそも市民が今、何を求めているとかいうのは別軸で情報をいただけたら、もっと密な議論ができるのではないかなと思うのです。きょうのこのファイルを見て、すごくたくさんの活動があることも、前回に続き、知る機会というのが私もこの会に参加して初めて知った、これだけいろいろなことやっていれば、館ごと、施設ごとの企画が重なる、要は開催日が重なって、もし市民の方が両方情報を得たのに、どういう選択をしているのかなというのも興味がありますし、似たような活動があれば、それこそ一斉に一度に同じ企画で館同士で連携した企画があってもいいのかなと思います。

ルールがよくわからないのですけれども、全ての館、同時に1日を使って連携した企画をやるのも、市民としては楽しみながら参加できて、いつの間にか市の情報、地域の情報が頭の中に入っていきような、まずは興味を育てる部分から入り口をつくるような企画が、館の連携をとりながらできるのではないかなと感じました。

確かに、そういう運営は大変なのでしょうが、そのサポーターを各館で日ごろ活動している団体の方たちにサポートをお願いするような企画があってもいいのではないかと思います。

それこそ団体の方々にアンケートをいただいた結果を皆さんに共有してお話しできる機会があるのかなと思って、私はグループアンケートのようなものをやったりするのかなと思ったのですが、私はそういう場もやはり必要かなというふうに思います。

あと、本当にたくさんの共通する話題が出てきましたが、私は大事なものは、たくさん白井市には資源があると思います。共通する部分があって、その共通する部分、点を線にすると同じ音楽の可能性、すごく共通するものがたくさんあるなと思ったのです。資源を考えていくとたくさんあるので、それを何かつないで、地域にはそういうふうな音楽に強い人材がいなにかというのを、ほかにあるから、ぜひ一緒にコラボしませんかというような企画が気軽に相談できるような、研修会とかというそんな堅苦しいものでなくてもいいのですけれども、共有できる場みたいなものを行政がセッティングして行うというのも一つ。グループ化を活性化したり、マンネリ化を打破するための支援として、いいのではないかなというふうに思いました。白井にある資源を白井市のみんなが共有できるような、もうちょっと総合的な機会があってもいいのではないかなと思

ました。

あと、済みません、全然違う質問ですが、うちの子が小学校の社会の時間に、宿題を家で書いて調べていったものを見てびっくりしたのですが、白井市のことをすごくいっぱい調べていたのです。「白井って、なし坊がいて、こういうイベントとこういうイベント」と。何を調べているのと言ったら、彼女のグループは白井市に対して調べるものだったらしいのです。それで先ほどY o u T u b eの話もあったのですがけれども、何かそういう教育委員会とか、小学校が市について調べるという機会って絶対あると思うのです。担任の先生はそういう資料があると、ずっと教育の材料として使いやすいのかなと思ひまして、何かそういうのってあるのですか。こういう市のこういう情報を子供たちに配られたりとか小学校にしていますか。

(事務局)

小学校の副材として、私たちの白井市みたいな社会で使えるようなやつは、市の小学生には配っていたりとかはするのでありますが、それを市外の小学生が調べるために見られるかどうかというのはなっていない状況ですので、本当に市のホームページにあるものだけが提供という形になってしまっています。

(委員)

私は市外なので、市内の小学生はもちろんその冊子を見ることがあると思うのですがけれども、そのうちこういうもっと身近な情報、自分の近くでこういうことをやっているよというものをもしかしたら学校の授業とか教育の中で共有することができたら、これは本当に社会教育、生涯学習の本当にスタートになるのではないかと思ひました。

やはりうちの子が見たのもホームページだったのです。例えば、なし坊が紹介をいろいろな公民館に行って、きょうはこんなのやっているよみたいな感じのことを別に、なし坊がユーチューバーになるわけじゃないのですが、そういうふうな情報発信の仕方をしていくというのも楽しい遊び方みたいで、公民館でこういうことをしているよみたいなのがあると話題にもなるのかなと思ひました。

(委員長)

ありがとうございました。今、各委員から説明をいただきました。それぞれお話しただいたことは、事務局が、整理をしながらホワイトボードに書き出してくださいました。本来であれば、その内容をあらためて確認しながら、もう少し議論したいところなのですが……。時間も限られておりますので、大変申し訳ございませんが、書き出してくださいました内容を、あらためて整理していただき、次回の会議に向けて、私たち委員にフィードバックしていただけたら有難いです。

議題の2番目については、ここまでにいたします。

次に議題の3番目、平成31年度の社会教育関係団体の認定についてご説明をいただければと思ひます。

(事務局)

社会教育関係団体の認定については、白井市社会教育関係団体の認定に関する規程第4条の規定に基づき、行われるものです。

これからの審査につきましては、団体の代表者の氏名、住所等、個人情報について、取り扱われております。

つきましては、議事3は、白井市情報公開条例第9条第2号に基づき、非公開として行います。傍聴人のかたは、ご退出願います。

— 白井市情報公開条例第9条第2号に基づき、議事2は非公開 —

(委員長)

これで本日の議題は終了ということになります。最後に事務局よりお願いします。

(事務局)

事務局から一つ事務連絡をさせていただきます。このたび図書館長より、生涯学習推進委員から1名、図書館協議会の委員の推薦依頼がございまして、事務局で検討させていただいた結果、委員を推薦させていただきましたので、ここでご報告させていただきます。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。では、これをもちまして第1回の白井市生涯学習推進委員会会議のほうを閉会いたします。ありがとうございました。

(事務局)

委員長、議事進行ありがとうございました。また委員の皆さま、長時間にわたりご審議ありがとうございました。

次回の会議ですが、テーマ集約の都合上、臨時会の開催を予定しておりますので、大変申し訳ございませんがご了承くださいませようお願いします。案内については、日程が決まり次第、ご郵送させていただきます。

本日は、ありがとうございました

以上

●使用した資料

- ① 平成30年度白井市公民館等講座・学習のまとめ
- ② 社会教育関係団体の育成のためのサポートのあり方について
- ③ 平成31年度白井市社会教育関係団体認定申請一覧表（非公開）